



キンシャサの軌跡

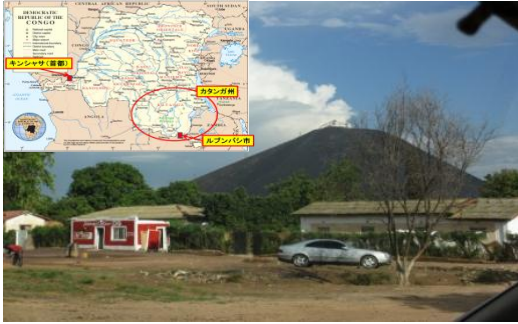


JICAコンゴ民主共和国事務所通信

2013年3月 Vol. 2

Kinky Shot! -今月のルブンバシ-

タイトル:「ほた山」



本3月号は「ルブンバシ」特集!「コンゴ民で住みたい街ナンバーワン」と言われている。コンゴ民南東部に位置するカタンガ州の州都であり、ザンビア国境までほんの1時間ほど。豊富な鉱物資源で栄え、南部アフリカ経済圏と繋がった、首都キンシャサとは違った雰囲気を持つ街。そんなルブンバシの一枚はこちら! 通称「ほた山」。鉱物の採掘の過程で資源として使えず廃棄する「捨石(ほた)」を積み上げたもので、高さ100メートル、幅500メートルほどとのこと。実際は廃棄されず、このほたから更に銅・コバルトを抽出している。

Grand Karavia Hotel

L'shi Life! -ルブンバシで泊まる

ルブンバシのホテルをご紹介します。抜けるような青空と鏡のような水面の湖畔に面した「グランド・カラビア・ホテル」。コンゴ民にいたることを忘れてしまうくらい快適でモダンなホテル。但し、値段も一流で…。プール、レストラン、会議場の他、フロントにはコンシエルジュや旅行代理店のブースもあり、さらにはすぐ近くにゴルフ場まである。朝食ビュッフェもなかなか豪華。たまにはキンシャサを離れて仕事でなくのんびりと休暇で滞在したいと思わせるほど(しかしサファリがある訳ではなし)。あと個人的にはフィットネスジムがないのがちょっと残念。

カラビアは別格だが、街中には他のビジネス向けのホテルもいくつもある。エコノミー滞在者向けには60~100ドルくらいのホテルもたくさんあり、クーラー、Wifi等は大体どこでも標準装備となっている。蚊帳はあったり、なかったり。但し、停電や虫の出現も茶飯事なので普通のアフリカに慣れた人にはリースナブルなのでお勧め。詳しく知りたい人は事務所へ要連絡! リストをお渡します。



Eat L'shi! -ルブンバシで食べる-

ルブンバシイチ推しレストラン

Le Boucheur



ルブンバシ随一のレストランと評されるステーキハウス。それもそのはず、本物を知る? カトゥンビ知事の経営する店である。眺めの良い湖畔に構えるお店は近未来的な雰囲気を持ちながら、カウボーイハットをかぶった店員がにこやかに迎えてくれる。自慢のお肉は南アフリカから直輸入のAAA牛利用。食べてみると臭みもなく、ナイフ1往復で切れる。特筆すべきは選べるソース(有料)。通常のマッシュルームやペッパーソースに加え、「アボカドとチーズ」とか、「ビーフジャーキー」とか、それってソース? という選択肢が光る。しかしこのアボカドとチーズソース、全くソース気はないが、お肉と一緒に食べると絶妙なハーモニーで癖になりそう。常識は疑え!

そしてここには日本人に見えなくもない中国人が握る寿司がある。それはキンシャサで生魚に飢えた人の心を満たしてくれるレベル。メインのネタはもちろんサーモン。予算は一人50~80ドルとやや高めも、ルブンバシでは外せない店である。

(前回の続き)キンシャサ市内から空港へ抜ける目抜通りの改修工事は、工事開始後に大統領より2車線から4車線への拡幅を迫られ、中断命令が下された。腸に潰瘍ができる程悩む所長米崎。4車線にしなければ工事は再開できない。でも4車線にすることはJICAのスキーム上不可能。先方施主と粘り強く交渉し、本部とも協議を続けた結果、一つの決断を下した。「4車線化は認める。ただし、拡幅する2車線は先方政府負担で実施。」この方法であればJICA側は設計変更をすることで対応可能だが、問題は政府がお金を出せるのか?インフラ省に訊くと、あっさり、「今は無理です!」

最終的には当面の工事予算は見返り資金(日本からの食糧援助等を販売し積立した資金)の一部を活用することで決着し、ついに10か月の中断期間を経て、2011年10月1日に工事再開命令が出された。ずっと待たされ続けたコンサルタントや施工業者にとっては長い冬を越え、春一番の吹いた日であった。そして彼らの工事は後にこの国に大きなインパクトを与えることとなる。一方、当面の予算は確保できたものの、後半の拡幅工事予算に関しては不透明である。先方政府は払うと言っているが、本当に払えるのか?そして拡幅に伴って、山ほどある撤去すべき支障物を政府がどう対処するのか?まだまだ悩みは尽きない。(次回へ続く)



写真提供:久野真一

やっと工事再開。気合が入る!



写真提供:久野真一

一部の側溝は拡幅のため設置し直し…。

コン月のイベント

官民合同ルブンバシ視察



「ルブンバシを見ずしてコンゴ民でビジネスはできない」。豊富な鉱物資源を背景に高い経済成長率を誇るカタンガ州ルブンバシ市に7人のサムライが足を踏み入れた。2013年1月28日~31日、在コンゴ民日本大使館とJICA事務所のイニシアティブで官民合同視察を実施。南アや日本から民間企業、政府及び関連機関の関係者が参加した。当初本視察は昨年8月の官民合同投資ミッション時に予定されていたが、最終的に日程上の都合で断念。その際、「是非ルブンバシに行く機会を!」との声が数多くあり、今回の実施に至った。

まずは、カタンガ州のドンであるカトゥンビ州知事の表敬からスタート。同知事からは「日本人の仕事ぶりは素晴らしい!多くの本邦企業が進出してくれることを願う。」との熱いアピール。その後、地元の政府・民間企業関係者を招いた貿易投資促進セミナーを実施し、日本側参加者を含めて50人ほどが参加。日本側参加者のフレッズンに参加者の目が釘付けに!更には、地元の市場や鉱山探掘サイトを視察。視察を終えて「ルブンバシっていいところじゃないか!」との印象を参加者に持ってもらえたと感じている。かつて70年代には鉱山開発のため千人あまりの日本人がいたルブンバシ。この地に多くの日本人が戻る日は遠くない!

愛すべき?コンゴ人



所属: カタンガ州政府
氏名: モイース・カトゥンビ

ルブンバシと言えはこの人。カタンガ州で絶対の人気の敏腕州知事。次の大統領候補との噂も。世界2位にもなったカタンガのサッカーチーム「マゼンベFC」のオーナーでもある。ザンビアで日本企業と一緒に働いた経験あり(本人談)。豊富な資源を握るキーマンである。

編集後記

「キンシャサの軌跡」と言いつついきなり2回目からルブンバシ特集でしたが、いかがでしたでしょうか?この辺りのフレキシブルさがコンゴの魅力です!?我々所員もルブンバシに行くたびにそのポテンシャルに舌を巻きます。スーパーには何とオ○ナミンCまである、恐るべしルブンバシ。コンゴ民の違った一面を垣間見れます。また、4回連載のJICA事業ウラ話、ポワ・ルー案件の担当者は離任しますが、お話は続きます。最後までお楽しみに!今回は事務所特集です。それでは!